

第3章 目指す将来像

1

望ましい環境像

小牧市は、尾張丘陵から濃尾平野へと広がる地形と天然・人工の多様な水系を持ち、小牧山や市の東部に広がる丘陵など、先人より引き継がれた、豊かで美しい自然に恵まれています。こうした恵まれた環境を享受してきた私たちは、この環境を維持するだけでなく、さらによいものにして、将来の世代に引き継ぐ責務を負っています。

いま、私たちが生きる地球では、温室効果ガスの排出による地球温暖化や異常気象の増加、森林の減少、プラスチックごみの海洋流出、環境破壊による生物種の減少など、環境問題が深刻化しており、人類の生存が脅かされています。

私たちは、その原因が日常生活や事業活動など身近な活動に起因していることを改めて認識し、市民一人ひとりが二酸化炭素排出量の削減やごみの減量化、環境に配慮した行動をとるなど、積極的に取り組み、未来のこどもたちに豊かで美しい地球を残すために、人類だけでなく多様な生物にとって良好な環境を保全していかなければなりません。

小牧市では、平成 15（2003）年 3 月に第一次となる「環境基本計画」において、望ましい環境像として、「尾張野の 四季の恵みが 実感できるまち」「環境都市こまき」を目指してまちづくり、地域づくりに取り組んできました。

望ましい環境像を実現するためにあらゆる主体の環境配慮が徹底され、その取組が環境変化として現れるまでには長い年月を要します。今後もこれまでの環境基本計画で掲げた環境像を引き継ぎ、市民・事業者・市などあらゆる主体の協働のもと、日常の生活や事業活動により発生する環境負荷の低減に努めながら、「持続可能な社会」を構築し、私たちの生活にうるおいを与えてくれる身近な自然の恵みを将来の世代へと継承していきます。

小牧市の目指す望ましい環境像〈小牧市環境都市宣言（変更後）※¹ 抜粋〉

尾張野の 四季の恵みが 実感できるまち 環境都市こまき

- 一、カーボンニュートラルを実現し、持続可能なまちを目指します
- 一、資源循環を推進し、環境と産業が調和するまちを目指します
- 一、良好な環境を保全し、自然と共生するまちを目指します

※ 1 小牧市は、市制50周年の平成17（2005）年11月19日に「小牧市環境都市宣言」を行い、環境への取組を進めてきましたが、世界規模では環境問題が深刻化し、厳しさを増していることから、市制70周年の「小牧市制70周年記念式典（令和7（2025）年5月18日）」において変更を行います。

2 基本目標

小牧市の目指す望ましい環境像「尾張野の 四季の恵みが 実感できるまち」「環境都市こまき」の実現に向けて、本計画が目指す 2030 年の小牧市のイメージを 5 つの分野ごとに描きました。

これらの将来イメージを、望ましい環境像を実現するための基本目標として位置づけ、市民・事業者・市の協働のもとで、将来イメージの実現に向けた取組を進めていきます。

なお、望ましい環境像や基本目標を実現するために実施する環境施策は、同時に小牧市の経済活性化や快適なまちづくりといった環境以外の分野にも好影響を与えることが予想されます。そこで、環境施策の実施が小牧市の社会・経済などの複数の異なる課題の解決と相互に関連していることを示すため、それぞれの基本目標に関連する SDGs を表記しました。

表記した SDGs は、本計画の推進によって達成されるゴールであると同時に、「小牧市まちづくり推進計画第 2 次基本計画」をはじめとする各種計画の推進によって達成されるゴールでもあることを認識しながら、施策の展開を図っていくものとします。

第三次小牧市環境基本計画（改定版）が目指す 2030 年の将来イメージ



基本目標Ⅰ

脱炭素社会の実現

～脱炭素なくらしを営むまち～

【小牧市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）】

2030 年の将来イメージ

2050 年カーボンニュートラルの実現に向けて市民・事業者・市が一丸となり取組を進めていくなか、脱炭素に貢献する省資源・省エネルギー型のライフスタイル、ビジネススタイルを選択することは、市民や事業者にとって日常的な習慣になっています。

2050 年までに市域全体で再生可能エネルギーを基幹電源とするために、家庭や地域での再生可能エネルギーなどの導入や利用が拡大し、エネルギーの地産地消が進んでいます。

また、エネルギーの創出に加え、断熱性などの省エネルギー性能を追求したエネルギー収支がプラスマイナス「ゼロ」の住宅や工場、ビルの建設が進んだほか、次世代自動車が普及しつつあるなど、まちの脱炭素化が進んでいます。

関連する SDGs



副次的な効果※1

- 住居の快適性の向上
- 徒歩・自転車利用の増加による健康の維持・増進
- 環境の保全、資源循環に寄与する新たなビジネスの創出
- 省エネ等による事業活動のコスト削減
- ICT（情報通信技術）の活用によるテレワークなどの働き方改革の実現
- エネルギーの自立による地域の防災・減災力の強化

※1 基本目標に掲げる環境の取組を実施することで、環境以外の分野（経済、産業、雇用、福祉、健康、防災等）において同時に実現できる効果のこと。

基本目標Ⅱ

資源循環型社会の実現

～資源循環に配慮したくらしを営むまち～

2030年の将来イメージ

5R（リデュース、リユース、リサイクル、リフューズ、リペア）の取組が定着し、資源循環に配慮したライフスタイル、ビジネススタイルを選択することは、市民や事業者にとって日常的な習慣になっています。

食品ロスの削減やプラスチックごみ削減に向けた意識が高まり、ごみになりにくいものの、本当に必要な分だけを購入する、不要なものをもらわない・買わないなど、市民1人が1日当たりに排出するごみの量が少ないまちになっています。

また、循環経済への移行が進み、ごみとして捨てるものでも資源として再利用する仕組みが整い、焼却処理されたり、最終処分されたりするごみの量が減っています。

関連する SDGs



副次的な効果

- 健康を含む様々な生活の質（QOL）の向上
- 環境の保全、資源循環に寄与する新たなビジネスの創出
- 快適に暮らせる居住環境の実現
- 資源回収等による市民活動の活性化
- 余剰食材のフードドライブの活用増加による食育の推進

基本目標Ⅲ

自然共生社会の実現

～豊かな自然と人がともに生きるまち～

【小牧市生物多様性地域戦略】

2030 年の将来イメージ

兒の森や小牧山をはじめとして、里山の緑が保全され、緑の骨格を形成し、まちにうるおいを与えています。

これらの緑は市民や事業者との協働で手入れされ、多様な生物が確認できるようになり、自然環境学習の開催が活発になっています。

公園や街路樹などのまちなかの緑と、農地や樹林地、河川などの自然の緑がつながり、水と緑のネットワークが形成されています。

住宅や民間の建物では、緑化が進み、豊かな緑が身近に感じられるようになっています。

関連する SDGs



副次的な効果

- 地域の価値や魅力の向上
- 自然とのふれあいによる健康の維持・増進
- 協働の推進、地域コミュニティの活性化
- 農産物の地産地消の活発化
- グリーンインフラによる地域の防災・減災力の強化

基本目標Ⅳ

安全・安心・快適な社会の実現

～健やかで快適な暮らしを営むまち～

【小牧市気候変動適応計画】

2030年の将来イメージ

大気や河川、騒音などに対する調査・監視・指導の継続により、環境基準を達成しています。

ポイ捨てや不法投棄によるごみが少なくなり、美しいまちが維持され、市民の美化意識も高まっています。

また、集中豪雨などの自然災害に対する防災対策や異常高温に伴う熱中症予防の意識が高まるなど、気候変動の影響による被害を最小限にする行動が定着しています。さらに、国や愛知県と連携し、短時間の集中豪雨などによる浸水被害や土砂災害の防止対策の強化が図られ、災害に強く安全・安心に暮らせるまちになっています。

関連する SDGs



副次的な効果

- 地域の価値や魅力の向上
- 健康を含む様々な生活の質（QOL）の向上
- 安全・安心に暮らせる居住環境の実現
- グリーンインフラによる地域の防災・減災力の強化

基本目標Ⅴ

人づくり・環境基盤の整備

～みんなで取り組む環境づくりのまち～

2030 年の将来イメージ

家庭や学校、職場など様々な場面で、環境問題について正しい知識を学び、その解決に向けて積極的に行動できる市民や事業者が増え、持続可能な消費行動が生活習慣となって定着しています。

こどもから大人まで誰もが気軽に楽しみながら参加できる環境学習講座やイベントが数多く開催されるなど、環境学習の機会も増え、市民・事業者・市の協働による環境保全活動が積極的に行われています。環境保全活動を通して、市民と事業者の間に交流が生まれ、さらに発展的な活動へと取組の輪が広がりを見せています。

関連する SDGs



副次的な効果

- 地域の価値や魅力の向上
- 健康を含む様々な生活の質（QOL）の向上
- 協働の推進、地域コミュニティの活性化
- 活動を通じた健康の維持・増進
- 生涯学習社会の実現、生涯学習の活性化